

講演会のご案内

日本アート評価保存協会では、若手コレクターの育成事業の一環として、アート業界で活躍する皆様を講師に迎え、スペシャルトークを開催しております。**一般の方もご参加いただけます。**

2018年

7月17日 (火) 18:00 ~

切手の博物館
学芸員

田辺 龍太氏

『印刷美術の側面からとらえる郵便切手』

郵便切手は、多くの人に郵便を手軽に使ってもらい、郵便の収益向上につなげる方策の一つとして、1840年にイギリスで誕生しました。切手を用いた郵便制度は当初の目的通り、国家に相当の利潤をもたらしたといわれます。そして、切手は世界に普及したのです。日本では明治4(1871)年の近代郵便制度の導入とともに切手が発行されますが、欧米では切手収集が日本切手発行以前から盛んで、集めた切手を整理する帳面も市販されていたほどです。

博物学者の南方熊楠(1867-1941)は、アメリカに滞在していた青年期、切手を集めていました。切手からお国柄が伝わってくる、と記しています。まさに切手の図案には、当該国や地域の特徴が示されていたのです。今日までの切手を振り返ってみても、各時代の風潮や世相を知ることができるといっても過言ではありません。また、印刷技術の革新にも触れることができます。

今回は、最初に以上のような郵便切手の歴史を紹介したのち、切手における印刷技術の特質と複製芸術ともいえる切手デザインの妙、すなわち切手というグラフィックアートをメインに取り上げます。切手に描かれた有名美術作品を鑑賞することで、実際の美術作品の鑑賞に、さらに一歩踏み込める楽しさもお伝えできれば、と思っています。

田辺 龍太 (たなべ・りゅうた)



【略歴】

1964年生まれ。切手の博物館学芸員。日本郵趣協会正会員。日本マンガ学会正会員。東京国立博物館客員研究員。國學院大學文学部史学科卒業。株式会社便利堂を経て現職。『NHK美の壺 切手』(NHK出版 2009年)の達人の言葉を執筆。『日本美術全集』(小学館 2012~16年)の月報に日本美術切手の記事を連載。『切手と仏像』(講談社 2018年)の切手コラムを執筆。

申込方法

事務局まで直接お問い合わせ下さい。

(メール) info@ja2pa.or.jp

(電話) 03-3569-1250

※電話受付時間 平日 10:00-18:00

聴講料

500円 ※要申込み

会場

東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館8階